



からしだねの由来 マタイ 13章 31節、マルコ 4章 30節、ルカ 13章 18節

ホームページアドレス <http://mizumaki-church.sakura.ne.jp>

発行・カトリック水巻教会
編集・広報委員会
遠賀郡水巻町頃末南1丁目35-3
〒807-0025
TEL 093(201)0680 FAX(201)7354
第432号

誇るものがないことこそ、キリスト者の誇り

フランシスコ・アシジ 谷口尚志

2月末、わたしは長崎教区の先輩司祭からの依頼を受け、上五島の数ある教会のうち、真手ノ浦教会、猪浦教会、焼崎教会の3つの教会へ黙想指導（講話）のために訪問しました。上五島へは2度目の訪問で、前は20年前。当時、私は所属する教会において教会学校の手伝いをしており、夏休みに堅信クラスの巡礼旅行に同伴することになり、その訪問地として上五島を訪問しました（宿泊先も前回と同じく真手ノ浦教会）。大学生だった私は、正直なところ、巡礼というよりは観光気分教会群を訪れていたように思います。また、夕食には見たこともない大きさの伊勢エビや大皿に盛られた活き造りなど、今まで口にしたことのないものが目の前に出されましたから、尚更のこと、観光気分には拍車がかかってしまったものです。しかし、今思い返してみると、遠くから来た来訪者のためにと精一杯のもてなしをして下さったのだと理解できます。今回の訪問でも信徒の方々から多くのおもてなしを受けました。心から感謝をするとともに、私の方こそ恵みの時をいただいたことを自覚させられました。

さて、復活祭を迎えた教会は、自分たちにとって何を誇りとすべきかを問われています。当然、私たちは復活されたキリストが生活の中心に据えられていることを知っていますので、キリストを誇りとしなければならないのですが、そのためには、逆に、キリスト以外には何も誇るものがないということを自覚しなければならないこととなります。「自分は何を誇りとすべきか」。つまり、キリストを信じる者にとって、この問いに対する答えは「自分には何も誇るものがない」というものになるのです。キリストを知らない人がこの言葉を耳にしたら、キリスト教徒は自己肯定感の低い人々なのだ

抱樸支援会	2面
外国語ミサの話(4)	3面
ベリオン神父様送別	4・5面
幼稚園から	6面
委員会等報告	7・8面
お知らせ・がんば3	8面

と思われるかも知れません。しかし、わたしたちは自己肯定感が低いわけではなく、人生の価値を見失っているわけでもなく、ましてや、自暴自棄に陥っているわけでもありません。何も誇っていないのではなく、キリスト以外、自分には誇るものがないということを主張しているのです。なぜなら、キリストご自身が誇ることなど到底できない十字架刑をすすんで受けられましたから。

「わたしたちの主イエス・キリストの十字架のほかに、誇るものがあるではありません」(ガラテヤ6・14)。私たちが十字架の先にあるキリストの復活の栄光にあずかるためには、パウロのように、キリスト(の十字架)以外誇るものがないと宣言するしかないのです。

安住の地を求めて海を渡り、隠れつつ信仰を守り抜いてきたキリスト信者にとって、1587年のバテレン追放令に始まる迫害によって経験してきたことは十字架の道そのもので、決して人前で誇ることはできません。しかしながら、その経験こそが心からキリストを誇りとするにつながり、キリストの命、生き方そのものと結びつけられていったことは言うまでもないでしょう。キリストと結びつけられているからこそ、誇るものが自分になくてもいいのです。私たちが何を誇りとして生きているのでしょうか。



「ホームレス支援炊き出し」 NPO 法人抱樸(ほうぼく)への支援活動

2023年11月10日(金) 手作り弁当130食、お手伝い17名、献金10,000円

2024年2月23日(金) 手作り弁当120食、お手伝い15名、献金8,000円

NPO 法人抱樸へ届けました。

金曜日、小倉勝山公園で配食されます。路上生活者は減少していますが、生活困窮者が増えています

〈お手紙カード〉

お弁当の上に添えています。塗り絵は教会学校の子もたち、メッセージはふれあい会が中心に作成、信徒の皆さんの協力の輪が広がっています。

〈NPO 法人抱樸(ほうぼく)とは??〉 奥田知志理事長メッセージから抜粋

1988年12月、私達は路上に生きる人々を訪ね夜の町を歩き始めました。数名のボランティアがおにぎりを携え路上の人々を訪ねます。活動開始から25年を経た2014年、私達は名称を「抱樸(ほうぼく)」としました。山から切り出された原木・荒木(樸)をそのまま抱き止めることを意味します。困窮し傷ついた家族、泣くことさえできない子どもたち、さらに孤立する人々、仕事を失った人・・・抱樸が目指すのは「助けてと言える社会」です。 <抱樸支援会>

外国語ミサの話 (4)

岩本光弘

私が色々な言語のミサに行ったときに感じるのは、カトリックの信者で良かったということです。カトリック教会の毎日のミサで読まれる聖書の箇所は全世界同じ箇所であることは皆さんもご存じだと思います。昔はこのことを知りませんでした。ある時にこれを知ってからはどのような言語のミサにも違和感なしに参加できるようになりました。この事をプロテスタント教会での講演の時に話したら、牧師方は知らなかったようでした。

今までイタリア、トルコ、ギリシャ、ペルー、フランス、スリランカ、韓国で主日のミサに参加しましたが、今でも覚えているのはギリシャのアテネ大聖堂でのミサです。

この日のミサに来ている人は聖堂の半分くらいしかいなくて、その内旅行者が半分だったようです。旅行のツアーで来ていたのは我々日本人とスペイン人でした。

私たちの同行司祭の肥塚神父が祭壇に出て参加しましたが、ミサが終わった後に神父が私の所にまっすぐに来て言いました。「香部屋に行ったら会話がラテン語だったので驚いたよ」というのです。神父はローマの神学校出身だったのですぐに参加できたそうです。主任司式をする神父が気さくに話をしてくれたので楽しく会話をしていたら「さあ行こう」と言って司教の丸い帽子を頭に付けたのでアテネの大司教だったことが分かり慌てたそうです。

ミサは全部ラテン語でしたが肥塚神父は大丈夫だったそうです。ミサでは二階に聖歌隊がいて、混成四部合唱の完璧なグレゴリオ聖歌を歌いましたが、これほど素晴らしい聖歌は一回も聞いたことが無い程のレベルでした。この合唱を聞くためだけでもアテネ大聖堂のミサにもう一度行きたいと思っています。ギリシャ正教の中心地のアテネで、少数のカトリックの火を消さないために頑張っていると感じたと言うのが肥塚神父の感想でした。

ミサが終わって大司教から「君はラテン語がうまいから、行く所が無かったらいつでもここに来ていいよ」と言われたそうです。神父曰く「広島教区が首になったら行く所が出来た。良かった」というのです。この話はそれから二人の笑い話になりました。

トルコの田舎の教会のミサでは、司祭の典礼と同時に横にいる女性が別の言語で典礼を同時通訳していました。司祭はトルコ語で女性はアラビア語だったようで、多民族の国ではミサにも工夫がされていることに感心しました。イスラム教の国でのカトリック教会なので来ている信者はどうしてカトリックなのかと思いましたので、ミサに来ていた信者に私たちの旅の同行通訳に聞いて貰ったら、ドイツへ出稼ぎに行った時にカトリックに改宗して帰国したとのことでした。トルコのイスタンブールにはイスラム教の国なのに大きなカトリックの聖堂がいくつもありましたので、結構カトリック信者がいるのかと思いました。

どこの国でもカトリック教会であれば私たちはミサに参加できました。外国でミサに参加する度にカトリック教会のメンバーであることを実感して、喜びを感じます。ただ気を付けたいといけなは中国です。中国のカトリック教会は政府の監視下にありますので、うかつに列席すると捕まる可能性があります。

ありがとうございました、ベリオン神父様

広報委員長 山口一隆

4月にはフランスに帰国なされるベリオン神父様が2月17日(土)、18日(日)の両日にわたり、ゆるしの秘跡と黙想会のために水巻教会に帰ってきてくださいました。18日には黙想会の後、信徒会館で送別会も開かれました。

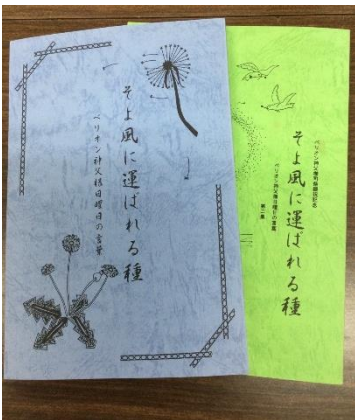
ベリオン神父様と広報委員会は因縁が深く、「からしだね」はベリオン神父様が水巻に赴任されてからの発行となります。毎号ベリオン神父様



の巻頭メッセージを掲載しましたが、何といたっても懐かしいのが「訪問者シリーズ」。何かトラブルやいさかいごとがあると突然神と思われる訪問者が現れ、解決の糸口を示唆するという内容でした。アトランダムに10話ほど続いたでしょうか。原稿をいただき、ワープロで打ち出す時、ワクワクしたのを思い出します。

説教もお上手だったので、説教集も2冊出しました。2冊とも図書室に置いてあります。

ベリオン神父様、本当にありがとうございました。帰国されてもお元気でご活躍されることを心より願っています。



↑ベリオン神父様の説教集



ベリオン神父送別の辞 松尾 隆

頑丈な土台の上に灯台を～ 貫かれた宣教師の姿勢 ～

ベリオン神父様長い間ご苦勞様でした。神父様は3月末日をもって日本での宣教司僕の使命を果たされフランスへお帰りになることになりました。来日以来そのほとんどをこの北

九州の地で働かれ、私たちの心のよりどころとなられた神父様に、心から敬意と、感謝を申し上げます。永い間ありがとうございました。

お見受けしたところ非常にお元気なご様子、まだまだこの日本でという誘惑が頭をよぎりますが、もうこれ以上の無理は言われなと思います。神様もきっとベリオンよくやったといわれるでしょう。フランスに帰られてもご健勝にお過ごしになることを心からお祈り申し上げます。

神父様は1968年日本にこられました。東京で二年間の日本語教育を受けたのち、福岡教区に來られ戸畑教会を振り出しに、この北九州の各小教区で働かれ、多くの人を信仰の道へと導かれました。一時期パリミッション会本部におられましたがおのほとんどを、この北九州の地で働かれ現在に至っています。

水巻教会へは1987年4月に赴任されました。その任期中に旧聖堂の老朽化による安全上の問題が浮上しました、専門家に依頼して建物の診断、診断、そして信徒会で様々な議論を重ねた上で建て替えることとなりました。

“頑丈な土台”の上に、“灯台”を、この言葉をスローガンに、この教会は建てられました。頑丈な土台とは、私たち信徒のこと、又、灯台とは水巻教会のこと。

在任中、神父様が力を入れていたことに信徒の養成がありました。その中の一つに、信徒会活動の改革がありました。

信徒の自主性、一人一人の働きを大切に、これまでの壮年会、婦人会という信徒会活動の在り方から、それぞれが自分に合ったこと、やりたいことを通して信徒会活動に参加する、名付けて小グループ活動へと大きく活動の在り方がかわっていきました。当時多数のグループが誕生して水巻教会の名のもとに活動をしていたと思います。今も当時発足したグループが活動を続けています。

もう一つ神父様が特に力を入れていたことに、聖書の学びがありました。信仰を深めるためには、聖書のことは、を知ることが大切だと、又、信徒会活動、社会活動を進める上でも聖書の言葉を理解することが活動をより実りあるものにしますと、聖書の分かち合い、勉強会への参加を呼び掛けておられました。私たちは聖書の言葉によって“強められ、養成”されると常日頃言われていたことを思い出します。

そして、これらの活動の先に神父様が目指した、信徒の養成“頑丈な土台”作りがありました。教会建設はまさに、その活動の実りであったと思います。

今日神父様を送別するにあたり改めて、神父様が伝えようとしたこと、残されたことを思い起こし、私たちも伝える努力をしたいと思います。

最後に、この水巻の地で教会が世の光となり、福音を証しすることをお誓い申し上げ、感謝の言葉といたします。

長い間ありがとうございました、神父様のご健勝を心からお祈り申し上げます。



水巻聖母幼稚園 マリア子どもの家 4月のお知らせ

いつも皆様のお祈りとお支えいただき感謝申し上げます。

〈水巻聖母幼稚園〉

年長児との思い出にお別れ遠足に行きました。年長児は自分で作った凧を揚げたり、たくさんの遊具で体を動かしたりして楽しみました。大きな滑り台を何度も滑る



姿があり、楽しい思い出を作ることが出来

ました。お弁当の時間は「たまごやきが入っている」「お弁当おいしいね」と愛情を感じる時間にもなりました。

耕した畑にじゃがいも植えをしました。ほかほかの土を深く掘ってじゃがいもを植え、土をかぶせ、お水をたっぷりあげました。カレーに入れるか、肉じゃがになるか楽しみにしているようです。“大きくなりますように”とお祈りしていました。



水巻聖母幼稚園 TEL : 093 201 9559
e-mail : coutactus@mizumakiseibo.ed.jp

〈マリア子どもの家〉

3月になりました。

「土をふかふかにして、ジャガイモを植えようね。」みんなで、せっせとスコップで土を耕し、幼稚園から分けてもらったジャガイモの種を穴の中に入れ、土をかぶせました。美味しいポテトができるといいね！

春の畑や庭は、発見がいっぱいです。「チューリップの花が見えてきたよ。」「人参の葉っぱが大きくなったね！」「これは人参に似ているけど、ポピーよ。」去年植えたポピーの種が落ちて、人参畑で何株も芽を出しています。奥の、ピワの木には今年もたくさんの実がついています！

TEL : 050 5212 7759

水巻聖母幼稚園・マリア子どもの家

園長 水口 由美

教職員 一同



委員会等報告

2024年3月分

3月度小教区委員会 3月3日

1. 行事予定

- ・ 4月 7日(日) 11時～ミサ。
ミサ後～小教区委員会
- ・ 4月 14日(日) 9時～ミサ。
ミサ後～教会学校、総務委員会
- ・ 4月 21日(日) 11時～ミサ
18時～ベトナム語ミサ
- ・ 4月 28日(日) 9時～ミサ。
ミサ後～教会学校、こころの会

2. 議題

(1) 各専門委員会および代表委員(営繕、納骨堂、冠婚葬祭)、北九州地区宣教司牧評議委員より

① 広報委員会

・ 3月24日(日)に「からしだね」の編集作業を行う。来年度4月より委員長の交代を予定(上甲銀河氏)。

② 典礼委員会

・ 2月18日(日)に典礼委員会を開いたが聖週間の典礼に向けての最終的な確認のため、3月17日(日)にも開く。
・ 中央協議会発行の十字架の道行きのためのしおりが不足しているため、70冊を揃える(灰色の表紙のしおりは各人に配布する)。

③ 総務委員会

・ 小教区委員会規約に則って、小グループと代表委員との連携のため、4月14日(日)のミサ後に初めての総務委員会を開くようにする(16名で構成)。

④ 財務委員会 ・ 特になし。

⑤ 営繕の部

・ 信徒会館屋外に設置してあるベンチと同じものを三脚購入。既存のものも含め、劣化防止のためのニスを塗る。

⑥ 納骨堂管理の部 ・ 特になし。

⑦ 冠婚葬祭の部 ・ 特になし。

⑧ 北九州地区宣教司牧評議会

・ 5月26日(日)に飯塚教会にて第2回地区聖書講座がある。引き続き、参加を呼びかけていくようにする。

(2) 聖堂で使用する予備椅子導入に向けてのアンケートを受けて

・ 導入する必要はないとの意見が大半。理由として挙がっていることは「パイプ椅子を使用してはいけない理由が分からない」、「そもそも現在使用している長椅子に信徒が前方から詰めて座っていったら予備の椅子を使わずに済むはず」、「信徒数が減少していく現状を考えると必要とは思えない」、「他に経費を回すべき」など。これを受けて予備椅子導入は見送るようになる。今後、事情のある方には配慮をしつつ、可能な限り、長椅子に中央から詰めて座るように意識していただく。3月10日(日)より呼びかけを行う。

(3) 3月31日(日)復活祭の主日ミサ後のお祝い会について

・ 今年は“復活のたまご”を200個準備し、3月31日(日)の復活の主日でのみ配布する。ボイル、シール貼りなどの準備は役員会が中心となって3月30日(土)に行う。

・復活の主日のミサ後からのパーティーの役割について。芦屋・遠賀地区はスパゲティ類、中間・吉田・梅ノ木地区は飲み物類、折尾地区はおにぎり類、赤間・海老津地区はからあげをそれぞれ約80名分準備する。ベトナム人青年たちにはお菓子類を準備していただくようお願いした。

(4) 信徒総会について

・5月19日(日)に信徒総会を開くため、ミサの開始時間を9時からに変更してミサ後

に行うこととした(直方教会の皆さんの厚意により、直方教会での主日ミサは5月18日(土)19時からに変更)。

(5) その他

・宗像の旧黙想の家で使用されていた長机を水巻教会に寄付したいとの打診があった。水巻教会には破損した長机もあるために引き取らせていただくこととなった(既存のものとはほぼ同じタイプのもの)。搬入作業は営繕の部に一任。

4月のおしらせ

★【各募金の中間報告】★

1月7日から2月11日までの募金について第一回目の送金を2月16日に行いました。

能登地震支援 97,851円

ガザ人道支援 56,810円

ありがとうございました。引き続きご協力をお願いします。

人-ひと

【帰天】安らかに！

3月20日

◇ベルナデッタ 常定 宏子さん

(芦屋地区)



「クリストフォール」

岡部和子

病気や高齢により教会でのミサに与れない人々を訪問して神父様と共に御聖体を届ける活動が、今は亡きガイヤール神父様の命名により『クリストフォール(キリストを担う)』として25年の時を経て今日に至っています。現在のメンバーは10名に減っており、活動の際には2名の担当者が神父様に同伴し共に祈っています。

コロナ禍が過ぎて今なお病院、施設での面会は時間制限が有り、重ねて宗教関係の問題が大きく報道され訪問が難しくなっているのが現状です。

その様な中に於いても少しずつ施設家庭訪問が出来ている事は幸いです。

また地区の方々より『心のともしび』が届けられており繋がりを実感しております。

病気の方々に寄り添うこの活動をそれぞれの関わりの中で次へと引き継ぐために、共に歩んで頂ける方を一人でも多く与えられます様に願っています。